

# 鹿児島大学

No.26

# 同窓会連合会報



左側の建物：化学生命工学科棟(旧応用化学工学科2号棟)、中央の建物：工学部共通棟  
右側の建物：海洋土木工学科棟(改修中：平成30年5月現在)

(撮影：大塚作一工学部教授)

特別  
寄稿

変わる大学教育

七 高 寮 歌

高津 孝 (鹿児島大学法文学部長)

高松 英夫  
(鹿児島大学理事・副学長  
(医学部医学科同窓会鶴陵会会長))

鹿児島大学同窓会連合会

2018年7月

# 鹿児島大学同窓会連合会会則

## 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

## 第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員をもって組織する。

各学部同窓会

鹿児島大学法文学部同窓会

鹿児島大学教育学部同窓会

鹿児島大学理学部同窓会

鹿児島大学医学部同窓会

鹿児島大学歯学部同窓会

鹿児島大学工学部同窓会

鹿児島大学農学部あらた同窓会

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

鹿児島七高同窓会

## 第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
- 4 幹事は本会と各学部同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
- 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
- 6 監事は会計の執行状況の監査を行う。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の仕事は、

前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。
- 3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

## 第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。

- (1) 役員を選任に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認めた事項

3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。

4 総会は、第1項に規定する役員の仕事の過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

## 第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、各学部同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

## 第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、代表幹事の仕事の属する同窓会内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

# 第26号の会報発行(平成30年夏)に寄せて

同窓会連合会 会長 江口 正純



全国各地で、そして遠くは海外に在られるOB、OGは10万人を超え、それぞれの地域で存在感を示しておられる事は御同慶の至りであり、其の後もお変わりなくご健勝でお越しの事と拝察申し上げます。

鹿児島大学入学式後の土曜日午後に開催されている同窓会連合会総会は今年は4月7日となりましたが傍聴される同窓生は毎年増え続けておりますし、夕方からの「鹿児島大学卒業生の集い」には今年は185名が参加され、新たに加わった共同獣医学部同窓会も含めて全学部にわたる同窓生の絆と協調融和の場の広がりを実感する様になって参りました。

更に地域にとって知の拠点となっている母校を支援していこうとされている企業、団体の関心が高まり、進取の精神育成支援会が設立されて基金づくりは着実に広がり続けてきております。

この事は2年後には学習プラザの壁面に、一定額以上の法人や個人の御芳名が銘板に提示される事になっており、鹿児島大学が世界にはばたいていく若者達や若手研究者の為に支援を続けていく下地が出来上りつつある事を示しており、鹿児島大学に学びたいとしている中学生や高校生達に希望と期待を与えていく仕組みとなって参りました。

同時に今、卒業生達が在學生に覇気をもたらそうと「きばいやんせ、鹿大生！」という催しが毎年開催されております。

これは各地で核となって活躍しておられるOB、OGが5～6名ずつ手弁当で駆けつけて在學生を対象にして、鹿児島大学に学んでいる事を、誇りに思い常に前を向いてきばろうじゃないかとハッパをかける企画でありますので、卒業生達のこの熱い思いをしっかりと受け止めて沢山の在學生が聴講される事を期待したいと思います。

四月に開催された鹿大OBゴルフ大会は今年は37回目となりましたが、同窓会設立20周年の記念式典を前にした教育学部が最多の同窓生を送り込み接戦の末、歯学部を退けて又も優勝となりました。そして第一回からの勝率は4割6分と他学部を圧倒する結果となりましたが、ふるさとで育つ若者の教育にこの気迫をぶっつけて下さる事を願っております。

明治維新150年を迎えている今年ですが私共は先人達が日本の近代化に傾けてきた志の高さを思い起こし、我が鹿児島大学が更に躍進していかれます事を祈念し、ご挨拶といたします。

---

## 目 次

第26号の会報発行(平成30年夏)に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	9
特別寄稿(法文学部、医学部)	18

# 学 長 挨拶

鹿児島大学長 前田 芳實



同窓会会員の皆様には、日頃より鹿児島大学の教育・研究に関しましてご理解とご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

6月11日には、各学部の同窓会から鹿大「進取の精神」支援基金にご寄附をいただき厚く御礼申し上げます。いただきましたご寄附は、学術研究や教育の充実・発展のために有効に活用させていただきます。

さて、本学は、南北600kmをキャンパスとして、地域とともに社会の発展に貢献する「進取の気風にあふれる総合大学」を目指して取り組んでいます。

平成30年度は、第3期中期目標期間の3年目となります。この2年間には、地域課題の発見と解決の方策を自ら考える人材育成を目標とした「地域人材育成プラットフォーム」を開設するとともに、地域活性化の中核的拠点としての機能強化を図るため、法文学部、教育学部の改組や教職大学院、共同獣医学研究科、総合教育機構及び南九州・南西諸島域共創機構を設置いたしました。さらに、平成31年度には、農学研究科と水産学研究科を統合した農林水産学研究科を設置する予定です。

平成30年5月には、今後の改革の方向性を示した長期改革プラン「2030年の鹿大」を策定しました。この長期改革プランは、2030年における本学のあるべき姿を描いており、本学が目指す「進取の気風にあふれる総合大学」を未来へつなぐ一つの道標となるものです。

また、今年には明治維新から150年の節目にあたる記念の年です。本学は、幕末時代の薩摩藩の精神を継承し、「進取の精神」を備えた人材を輩出することを大学の基本理念としています。この理念の下に鹿児島大学21世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業「UCL稲盛留学生」制度を設立し、UCL（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）と6月21日に協定を締結しました。この協定締結により、本学の大学院生1～2名を毎年UCLの入学許可を得て派遣することが可能となりました。留学生には、鹿児島大学稲盛和夫基金から、往復の渡航費、滞在費、授業料を支援します。

このように、本学は、教職員一丸となり知の拠点として、地域に貢献する大学を目指し、日々改革に取り組んでおります。引き続き、同窓会の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、本学は、平成31年度に創立70周年を迎えます。現在、その準備に着手しており、記念事業として記念式典、記念祝賀会、記念講演会、記念史の刊行などを予定しておりますので、お力添え賜りますようお願い申し上げます。

# 鹿児島大学の近況

## —進取の気風にあふれる総合大学—

(2017年11月から2018年4月までのトピックス)

### ○前田芳實学長が中国の学術交流協定校記念式典に出席（11月2日）

前田芳實学長をはじめとする鹿児島大学一行は、10月2日、学術交流協定校の山東師範大学（中国）を訪問し、同大学外国語学院日本語学科創立45周年記念式典に出席しました。

今回の訪問は、2009年に学術交流協定を締結した山東師範大学外国語学院の日本語学科が今年10月で45周年の節目を迎えるにあたり、数ある海外協定校の代表として本学前田学長が招待され、実現したものです。

式典の開幕式冒頭で、前田学長より「創立以来、発展を続け45周年の記念日をお迎えになられたのも、貴学日本語学科教職員の皆さまの優れた手腕と努力の賜と推察いたします。今後も貴学の更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。」と祝辞が述べられました。

また、本記念式典への出席後、唐波（トウ ハ）山東師範大学長を表敬訪問し、懇談を行いました。懇談において、唐波学長から歓迎の言葉と、本学と山東師範大学との交流の歴史についてのお話があり、現在も両校の間で活発な交流が継続していることに対する感謝の意が述べられました。懇談は終始和やかな雰囲気で行われ、最後に記念品を交わし、終了しました。

同日午後には開催された山東師範大学の各部局代表者との学術交流に関する意見交換会では、訪問に同行した尾崎孝宏法文学部教授を中心に、両大学の交流をより一層発展させるための深い議論を交わすことができました。

今回の前田学長の訪問を契機に、両大学間での益々の交流促進が期待されます。

### ○映画監督の田中光敏さんと脚本家の小松江里子さんが前田学長を訪問（11月7日）

10月26日、田中光敏監督と脚本家小松江里子氏が前田芳實学長を訪問しました。

両氏は、2019年4月に公開予定の映画「五代友厚」のPRとして来鹿され、鹿児島大学を訪問しました。

懇談では、田中監督から、「五代友厚が歴史上、今まで焦点を当てられなかった。薩摩の歴史の中で、重要な役割を担う五代友厚のストーリーを語り継がれていくように表現したい」と、小松氏からは、「世界の人が感動するエンターテインメントとして作品をつくりたい」と話されました。

前田学長から、「薩摩藩は、鎖国中の時代に英国へ留学生を派遣しました（薩摩藩英国留学生）。五代友厚は、その英国留学生の一人です。留学生は学問や技術を修め、帰国後は様々な物事に果敢に挑戦して、日本近代化のリーダーとなりました。本学は、英国留学生の意志を受け継ぎ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を持った学生を育てようとしています。お二人が描く五代友厚の作品を楽しみにしています。」と期待を述べられました。

### ○第33回京都賞受賞者を囲む鹿児島コロキウムを開催（11月15日）

京都賞は京セラ株式会社名誉会長の稲盛和夫氏により設立された稲盛財団が運営し、科学や文明の発展と人類の精神的深化高揚に著しく貢献した人々に贈られる国際賞で、本年の第33回受賞者は、先端技術部門（情報科学）に三村高志博士（半導体工学者 株式会社富士通研究所名誉フェロー）、基礎科学部門（生命科学）に本グレアム・ファーカー博士（植物生理学者 オーストラリア国立大学特別教授）、思想・芸術部門にリチャード・タラスキン博士（音楽学者 カリフォルニア大学バークレー校名誉教授）の3名が選ばれました。

鹿児島大学では、京都賞受賞者鹿児島講演会に先立ち、11月15日に部門ごとの受賞者を囲み、教員と大学院生が学術的交流を目的に討論や意見交換を行う鹿児島コロキウムを鹿児島市内のホテルで開催しました。

各分野最高峰の受賞者と直接議論が出来たことは、鹿児島コロキウム参加者にとって大きな財産となりました。

した。特に大学院生は、受賞者が研究を通じて築き上げてきた人生観や世界観にも触れることができ、貴重な体験の場となりました。

#### ○稲盛和夫鹿児島大学名誉博士からの寄附受納式を挙行（11月16日）

鹿児島大学は、本学工学部の卒業生で鹿児島大学名誉博士（京セラ株式会社名誉会長）である稲盛和夫氏から、京セラの株式100万株のご寄附を頂くこととなり11月16日に受納式を執り行いました。

受納式では、稲盛名誉博士から、「母校である鹿児島大学の発展に役立つことをしたいと思い、京セラの株式を贈呈することとしました。株式の配当金を将来性のある学生のために有効に使っていただきたい」と挨拶がありました。

挨拶の後、稲盛名誉博士から前田芳實学長へ目録が手渡され、前田学長から、稲盛名誉博士へ感謝の意を表するため、感謝状の贈呈がありました。

今回の寄附に対して前田学長は、「貴重な御厚志は、本学において教育研究の更なる発展のために有意義に活用させていただきます。今後の日本を担う「進取の精神」を有する有為な人材が育ち、本学がさらに大きく発展していくものと確信しております」と謝辞を述べました。

#### ○日本留学フェア（マレーシア）に参加（12月2日～3日）

12月2日～3日にクアラルンプールで開催された日本留学フェア（マレーシア）に、農学部教員、国際事業課職員、理工学研究科修士課程留学生在が参加しました。

本フェアは、日本留学を志すマレーシアの学生が適切な進学先を選択し、かつ実りある留学を達成できるようにするため、我が国の留学制度及び高等教育に関する情報を提供し、我が国への留学の促進を図る目的で独立行政法人日本学生支援機構が主催しています。セミナー会場では、日本学生支援機構による日本留学の概要説明や帰国留学生の体験談の発表等が行われ、本学はブース会場において学校案内や募集要項等の資料展示及び配付、教育内容や入学試験に関する個別相談を実施しました。両日で約3,000名が来場し、本学ブースへは約100名が来訪しました。

本留学フェアを契機に、本学への留学希望者の増加が期待されるところです。

#### ○水産学研究科の大学院生が新種や日本未記録の魚を発見・命名（12月4日）

水産学研究科の大学院生で、総合研究博物館で研究を行っている修士1年の藤原恭司さんと萬代あゆみさんが、これまで日本から記録がなかった魚を鹿児島海から発見、命名しました。

藤原さんは、ホタルジャコ科のセダカヒメスミクイウオ（新称）、タイ科のイワツキクロダイ（新称）、ハタ科のキオビイズハナダイ（新称）の3種に新しい標準和名をつけました。セダカヒメスミクイウオは東シナ海の水深58m、イワツキクロダイは笠沙の水深27m、キオビイズハナダイは草垣群島、三島村黒島、トカラ列島、奄美大島の水深180～360mから採集されました。

萬代さんは、ヤマトシビレイ科のツキシシビレイ（新称）に新しい標準和名をつけました。ツキシシビレイは東シナ海を含む南日本の水深141～435mから採集されました。同時にシビレイの仲間の「科（属と種の上位の分類単位）」の再編に着目し、タイワンシビレイ属が含まれる科に対し、新和名タイワンシビレイ科、ヤマトシビレイ属が含まれる科に対し、新和名ヤマトシビレイ科を提唱しました。

また、水産学研究科2年で、総合研究博物館で研究を行っているクント・ウィボウさんは、スズメダイ科のオヤビッチャに近縁な種の有効性を確認し、シリテンスズメダイと命名しました。加えて、ガラパゴス諸島沖で有人潜水艦によって採集されたフサカサゴ科の魚を新種と証明し、命名しました。

この他にも鹿児島大学卒業生と総合研究博物館の研究チームによって、最近3カ月の間に、日本や東南アジア、オーストラリアから、キホウボウ科、ハタ科、スズメダイ科、トラギス科などの魚類8新種が発見・発表されました。

### ○南九州プラットフォームと教職員支援機構の連携協定を締結（12月22日）

鹿児島大学と熊本大学が加盟する南九州プラットフォーム\*は、独立行政法人教職員支援機構との連携協力に関する協定を締結しました。

12月22日に東京の霞山会館で行われた協定締結式には、南九州プラットフォーム代表校の鹿児島大学と教職員支援機構の関係者が出席し、来賓の文部科学省の柳澤好治教員養成企画室長、山口大地教職員課長補佐の立ち会いのもと、本学の前田芳實学長と教職員支援機構の高岡信也理事長が協定書に署名しました。続く挨拶の中で前田学長から「今後も、双方の教育・研修の充実・発展のため、教職員支援機構と南九州プラットフォームとの連携、協力がより一層深まるよう、積極的なパートナーシップを築いていきたい」と挨拶がありました。

この協定締結により、加盟大学の教職大学院におけるカリキュラムの一層の充実だけでなく、教員等の資質向上など、鹿児島県、熊本県の教育改善への貢献も期待されます。

\*教職員支援機構のプログラムの活用や、学校教育関係職員の研修に関連する諸課題に対応するための連携・協力を目的として、鹿児島大学と熊本大学で「南九州プラットフォームに関する協定」を10月26日に締結

### ○KDDI株式会社取締役会長 小野寺 正氏を講師に迎え講演会を開催（1月25日）

1月25日、鹿児島大学では、KDDI株式会社取締役会長の小野寺正氏をお招きし、稲盛会館（キミ&ケサメモリアルホール）で、「鹿児島大学への期待」と題して特別講演会を開催し、教職員約200名が熱心に聴講しました。

講演では、アナログ時代からデジタル時代への変革の中で競争力を失った我が国の状況について「見えるモノづくり」と「見えないモノづくり」という観点から説明があり、ソフトウェア人材の育成が急務であることや第4次産業革命（サイバー革命）に伴う国家主権の変化など、小野寺氏のこれまでの経験を交えながらの話がありました。

また、「高齢化社会や人口減少などは地方から始まり、その中でも離島は、自然資源が保持され持続可能性のモデルとなる。世界の人口は76億人から2030年には86億人へ増加し、食糧不足の時代を迎える。」など日本の課題についても説明があり、このような社会環境の中で小野寺氏は、前田学長が鹿児島県の全市町村を訪問し、地域の課題の解決に取り組んでいることにふれ、「大学自ら鹿児島の課題を全学で洗い出し、取り組むべき課題を絞り込み公表することが大事です。教育も地方から変えられることを鹿児島大学に期待しています。」と激励の言葉を述べられました。

この講演を聴講し、改めて本学が果たすべき役割について考える貴重な講演となりました。

### ○食品安全専門人材育成プログラムを開設（1月26日）

鹿児島大学は、1月26日農林水産省において、日本マクドナルド株式会社の協力により、日本で初めて産官学連携による「食品安全専門人材育成プログラム」を開設することを発表しました。

本プログラムは、農林水産省が来年度より予定している産官学連携による食品安全専門人材育成の推進における第一弾の取組として、農林水産省からも協力を受けます。

講師は、鹿児島大学の教員と国際的な品質管理システムを構築している日本マクドナルド、農林水産省、鹿児島県、食品安全マネジメント協会ほか、国際基準に詳しい日本国を代表する担当者が務めます。

鹿児島大学は、地域の人材育成について中心的な役割を果たしていく使命があり、中でも食品産業は重要な産業であり、今後海外を含めた発展、展開を支援していく必要があります。一方で、食品安全リスクや管理手法等に関する情報は、地域間で格差があり、大学として、産業界や行政関係の最先端の情報を入手し、人材育成に反映させていく必要があります。

このような背景から、鹿児島大学は、社会人及び大学院生向けに食品安全専門人材育成プログラムを開設し、今後の鹿児島県、九州地域ひいては日本全国の食品関連業界に貢献する人材育成の一翼を担う存在として、高い意欲を持って取り組みます。

### ○鹿児島大学病院新病棟（B棟）竣工式を開催（2月2日）

鹿児島大学病院の再開発第Ⅳ期整備として建築中であった新病棟（B棟）がこのほど完成し、2月2日に関係者を招き竣工式を行い、学内外の約80名が出席しました。

式では、前田芳實学長から「新病棟竣工により、より高度でかつ良質な医療の提供と、医学・歯学の研究、教育、そして地域医療の拠点として、皆さまの期待にこれまで以上にお応えできる最新、最先端の病院となることを確信しています」と挨拶があり、夏越祥次病院長から「教育・研修や高度な医療技術の開発、評価及び研究、患者本位の質の高い医療の提供など、職員全体で一致団結して取り組んでまいります」と挨拶がありました。

続いて、文部科学省文教施設企画部 山崎雅男技術参事官、鹿児島県保健福祉部 塩田兼一郎次長、鹿児島県医師会 池田琢哉会長、前田学長、夏越病院長及び又木雄弘副病院長の6名によるテープカットにより式が締めくくられました。

竣工式終了後には、新病棟の内覧会が行われ、新病棟の特徴及びリハビリテーション部門、周産母子センター、放射線部門等の案内がありました。

新病棟は、中央診療施設部門と病院機能を持った地上9階地下2階建（延べ床面積18,101㎡）で、病床数316床を擁しております。また、災害拠点病院として、免震構造や非常時の電力確保などの機能を備えたほか、個室の増床、多床病室の面積拡充、各個室・多床室へのトイレ設置など患者さんの快適な療養環境及びアメニティを重視した建物となっております。

### ○鹿児島大学病院がDPAT 登録病院として指定（2月6日）

2月6日に、鹿児島県庁において、災害派遣精神医療チーム（DPAT）の派遣に関する協定の締結が行われ、鹿児島大学病院がDPAT 登録病院として、鹿児島県から指定されました。

DPAT とは、精神科医、看護師、業務調整員（医師、看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、自然災害等の大規模災害時に知事の要請に基づき、被災地域において、専門性の高い精神科医療の提供、精神保健活動の支援を行う専門的なチームです。

なお、鹿児島県内でDPAT を派遣できる医療機関として登録されたのは、鹿児島大学病院と県立始良病院の2病院が初めてです。

### ○トビタテ！留学 JAPAN 第8期合格者の学長壮行・懇談会を開催（3月5日）

「平成30年度前期（第8期）官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」合格者と学長との壮行・懇談会が3月5日に行われました。本制度は、2020年までに学生の海外留学を倍増するという「日本再興戦略」に掲げられた目標の下、官民協働で「グローバル人材育成コミュニティ」を形成し、将来、世界で活躍できるグローバル人材をオールジャパンで育成するための派遣留学プログラムです。鹿児島大学からは第8期生として10名が最終合格し、うち5名が学長壮行・懇談会に参加しました。

壮行・懇談会では、学生から前田学長へそれぞれの留学計画や目的・抱負について報告が行われ、学長より、「留学先でも積極的に学ぶ姿勢を持ち、様々な体験を通して自身の目標を達成してきてください。また、帰国後は留学先での貴重な経験を他の学生にも伝えてください。」との激励の言葉が贈られました。第8期合格者は平成30年4月以降、それぞれの留学計画に従い順次留学を開始する予定です。

### ○平成29年度卒業式・修了式を挙げる（3月23日）

平成29年度（第66回）鹿児島大学卒業式・修了式が鹿児島県総合体育センター体育館において挙行されました。

今年度卒業・修了したのは、学部卒業者1,976人、大学院修了者509人の計2,485人で、各学部・研究科の総代へ学部長・研究科長から学位記が授与されました。

前田芳實学長は、学長告辞で、進取の気風広場に設置してある本学稲盛和夫名誉博士の銘文を紹介し、本学で培った進取の精神を礎として、これからの社会での活躍を祈念していると激励しました。



### ○大学院共同獣医学研究科の設置に伴う銘板除幕式を開催（4月2日）

4月2日、鹿児島大学農・獣医共通棟において「大学院共同獣医学研究科」設置に伴う銘板除幕式が開催され、前田学長、高松理事（研究担当）、清原理事（教育担当）及び宮本共同獣医学研究科長が銘板除幕を行いました。

大学院共同獣医学研究科は「世界先端的な獣医学研究の推進と生命・研究への高い倫理観を備えた先導的獣医学教育・研究者の養成」、「地域・国際社会の獣医学的課題解決に求められる高度な知識・技能・実務経験を備えた獣医療人及び獣医学専門家の養成」を目的としています。

### ○平成30年度入学式を挙行（4月6日）

鹿児島県総合体育センター体育館において、平成30年度鹿児島大学入学式を挙行しました。

今年度の入学生は、学部学生1,965名、大学院学生600名の計2,565名です。

学長告辞では、前田学長より、本学における各種学生支援制度の内容が紹介され、進取の精神の下、そうした支援制度を活用した海外留学や海外研修の機会を積極的に取得し、海外を経験することによる国際的視野の拡大と異文化理解の醸成や企画力、課題解決力、コミュニケーション力の向上など、自身の可能性へチャレンジしてほしいと、新入生へ激励の言葉が贈られました。

### ○第14回関西かごしまファンデーに出展（4月15日）

鹿児島大学は、4月15日、京セラドーム大阪で開催された「第14回関西かごしまファンデー」に出展しました。

関西かごしまファンデーは、関西鹿児島県人会総連合会が毎年開いていて、鹿児島県出身者の相互の親睦・連携並びに郷土との連携を深めるとともに、多くの鹿児島ファンが集う場のイベントとして、今年で14回目の開催となります。

会場には、特産品など300を超えるブースが出展し、関西在住の鹿児島県出身者をはじめ、3万5000人を超える来場者で賑わいました。

3回目の出展となる今回は、これまでの大学紹介や各部局の案内冊子の配布、大学オリジナルグッズの販売に加え、新たに農場生産品の白米、大豆、黒米や大学オリジナルブランド焼酎の販売も行い、大盛況でした。

「鹿児島大学」の旗を目印にブースを訪れる本学卒業生も多く、当時を懐かしく語りながら歓談する姿も見られました。

セレモニー会場では、鹿児島県内の各市町村長と前田芳實学長が登壇し祝辞を述べられました。

### ○教員の受賞等

①理工学研究科の小野智司准教授が「鹿児島県発明協会会長賞」を受賞（11月10日）

②理工学研究科の小山佳一教授が「第7回日本磁気科学会優秀学術賞」を受賞（11月15日）

③共同獣医学部の帆保誠二教授が「2017年日本ウマ科学会学会賞」を受賞（11月28日）

④理工学研究科の大塚作一教授が「電子情報通信学会創立100周年記念懸賞論文優秀賞」を受賞（12月13日）

⑤「第1回かごしま未来創造プランコンテスト」において、医歯学総合研究科の小賤健一郎教授が事業化部門で、理学部の加藤太郎助教の研究グループがアイデア部門で、ともにグランプリを受賞（1月20日）

### ○海外の大学等からの学長表敬訪問

①タンザニアの聖アウグスティヌス大学長一行（11月14日）

②トルコのチャナッカレ・オンセキズ・マルト大学長一行（12月20日）

③ジャン・マチュー ボネル在京都フランス総領事（2月21日）

## ○学生・大学院生の表彰等

- ①工学部の藤田紗世さん、理学部の奥奈緒美さん、法文学部の高田博之さんが「第6回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」グループの部で奨励賞を受賞
- ②理工学研究科の柳衛真人さんが高分子および繊維に関する日韓合同シンポジウムで優秀ポスター賞を受賞
- ③理工学研究科の大山真也さんが「日本エンドトキシン・自然免疫研究会」において優秀演題賞を受賞
- ④「第1回かぎん未来創造プランコンテスト」において、本学の学生グループが、準グランプリ（1団体）および特別賞（事業化部門1団体、アイデア部門2団体）を受賞
- ⑤理学部の金丸愛望さんが文部科学省主催「第7回サイエンス・インカレ」で奨励表彰を受賞
- ⑥教育学研究科の福留春菜さんが第46回鹿児島陶芸展でグランプリ（鹿児島県知事賞）を受賞

### 鹿児島大学『鹿大「進取の精神」支援基金』へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。

つきましては、本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本学への寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。

基金の詳細につきましては、本学の担当窓口へお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

### 遺贈によるご寄附のご案内

鹿児島大学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務と取り扱う提携信託銀行をご紹介します。

提携信託銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。

なお、相続税申告期限内に本学にご寄附いただいた財産については、相続税はかかりません。本学が発行する寄附受領証明書類（寄附金領収書など）を申告の際に税務署に提出されることで、当該寄附財産に係る相続税は免除されます。

本学への遺贈をご希望される場合は、下記の担当窓口へお問い合わせください。また、提携信託銀行へ直接お問い合わせいただいても結構です。

【お問い合わせ先】 鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係

TEL：099-285-3101又は3102 / FAX：099-285-7034

E-mail：s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

【基金ホームページ】 <http://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>

【遺贈に関する提携信託銀行（五十音順）】 みずほ信託銀行 鹿児島支店／三井住友信託銀行 鹿児島支店

# 各学部同窓会活動報告

## 法文学部同窓会

### 1. 平成 29 年度法文学部卒業生・大学院修了生同窓会入会式及び卒業祝賀パーティー開催

平成30年3月23日（金）卒業式終了後14時30分より、ジェイドガンデンパレスにて約210名の卒業生及び教職員が参加して、平成29年度同窓会入会式及び卒業祝賀パーティーが開催されました。

同窓会入会式では、高津学部長、仮屋同窓会長からお祝いの言葉があり、卒業生・修了生を代表して経済情報学科の内田昂志さんが謝辞を行いました。同窓会表彰は法政策学科の長田将幸さん（全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会で準優勝）経済情報学科のツツ木智輝さん（九州国公立大学ソフトテニスシングルスで優勝）本村亮さん（フットサル KOBECUP「学生リーグ」全国ラウンドで準優勝）の3名が表彰されました。3名の方には仮屋会長から表彰状と記念品が贈られました。

祝賀パーティーは江口名誉会長の乾杯でスタートし、恒例の抽選会が行われ iPad タブレットや JTB ギフトカードなど豪華賞品が当たった卒業生は大喜びでした。最後、川井田副会長の万歳三唱でお開きとなりました。



パーティー模様



受賞された皆さん

### 2. 法文学部同窓会宮崎県支部総会開催

平成30年1月27日（土）午後5時30分から宮崎市の「ホテルメリージュ」において支部会員33名が参加して宮崎県支部の同窓会が開催されました。桑水流宮崎県支部会長、仮屋法文学部同窓会長、金丸法文学部副学部長の挨拶に続き、28年度の決算・29年度の予算・役員選任が可決され桑水流会長が引き続き会長として承認されました。第2部では川井田同窓会副会長の講演があり、今年の大河ドラマ「西郷どん」の主人公である西郷さんと島津斉彬公、大久保利通との関係を中心に西郷さんの歌を交えながらのお話があり、大河ドラマを見る楽しみが高まりました。懇親会では、松元先輩の乾杯に続き、新規参加者の紹介など近況報告があり、最後に「北辰斜めに」を全員で斉唱し、閉会となりました。

### 3. 第10回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ開催

平成30年2月24日（土）第10回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。当日は天気もよく紅一点の石塚朝乃さんを含め、45名の参加があり、先輩・後輩の絆が深まりました。成績は以下のとおりですが、平啓博さん（S50年理学部卒）が見事ホールインワンを達成しました。

優勝	南 勝（S49年、法文学部法学卒）	ネット	71.2
2位	安田 雄一（S46年、法文学部法学卒）	ネット	73.0
3位	下柿元貴章（H20年、法文学部法政策卒）	ネット	73.0
ベストグロス	西堂路健一（S36年、文理学部心理卒）	グロス	83

●第11回大会 平成30年10月20日（土）南国カンツリークラブ  
皆様、奮ってご参加ください。

### 平成29年度第16回鹿児島県の教育を語るが開かる —協議テーマ「未来へ挑戦」—

平成29年11月24日（金）16時10分に「第16回鹿児島県の教育を語る」会が教育学部大会議室を主とする会議室で開会されました。

会場は教育学部管理棟・理系研究棟で全大会（開会行事）が開かれ、グループ協議一階の中会議室を中心に分かれて行われました。

その後、石神会長のご挨拶があり、土田学部長は都合が悪く欠席で、代わって上谷淳三郎副学部長の挨拶があった。副学部長からは今年教職大学院を開設したとのこと、学部を初等と中等に分けた学部改組があったことを話されました。

会長からはこれまでの経過について、特に昨今の同窓会総会を台風の為に断念した経緯についてと同窓会の運営について説明があった。特に来年の20周年記念大会に参加の要請があった。また、研修部長・兼副会長の東副会長から、今日の協議テーマについてテーマ説明が有りました。早速、一階と二階を使って、それぞれグループに分かれて、協議が始まった。各グループで締めくくりを行った後、食堂「エヂイカ」に移り、夕食を共にしながら、更に議論を深めた。

各班が出したレポートをまとめと①～⑥の項目があげられた。グループで主に話題になった項目は①自分に足りないものは何か（どうして充足するか）、②今の鹿児島の子どもに必要な力、③離島教育と鹿児島の教育、④まずやることは教師の学力、⑤教師の心身の健康の重要性、⑥未来社会を予想し、子供にどうかかわるかの六項目が挙げられた。

次に、参加した感想や意見等について纏めてみると、①学生からベテラン教師まで幅広い世代の方が集まって意見を交わすことは、今後の自分と向き合う上で良い機会であった。自分が持っていなかった考え、知識が話し合っているうちに次々と飛び交い、聞いていて非常に楽しく思った。自分について足りないものは何かについて話す機会があったが、自分に足りないものを理解していること自体が大切なことであってそれを充足するために行動できている自分を褒めるべきだとおっしゃっていたのは心が響いた。②今回の語る会に参加したことで、学生から大先輩の方々にお話しを聞く機会を頂け、とても有意義な時間を過ごすことができた。協議は鹿児島県の教育を語る上で欠かすことのできない「離島教育のあり方を中心に議論を重ねていった。特に印象に残っているのは「本土と離島の間には教育格差があってはならない」大先輩のお話である。義務教育である以上、平等な教育の機会均等を与えなければならないとおっしゃっていた。また、教師にとって大事なものは人間性であるということで、教師になる前に様々な経験を積み、教師として子どもの前に立って恥ずかしくないように一人前の人間になることがまず求められることだと感じた。③現場を経験してきたこそその意見や考えも多く聞くことができ、大変勉強になった。懇談・交流会では食事をしながら楽しい雰囲気の中でお話しすることができた。先生方から教員生活を聞きますます教員になりたいという思いが強くなった。

## 理学部同窓会

理学部便り 理学部楽遊会 会長 北村有迅（地球環境科学科・教員）

理学部には楽遊会という教職員の親睦会があります。学部内の比較的若手の教職員で構成され、現在では年に3回の懇親会を行うのが通例です。私は2014年に鹿児島大学に赴任し、4月の懇親会に招かれました。赴任当初一人も知り合いのいなかった私でしたが、特に他学科の先生方との交流を早い段階で持てたことはその後の大学生活に大いに役立ちました。そして2017年に私が会長を拝命して1年が経過したところです。

執筆の機会を頂いたのを機に、代々の会長が引き継いできた会の資料を紐解いてみました。

一番古いノートによると、発足は昭和42年。今年で51年目になります。不覚にも昨年度が50周年という筋目の年だったようです。発足時の最初のページに10条からなる会則もあります。それによると、第二条「遊ぶことを目的とする」と会の趣旨は極めて明確です。そして、第七条「本会は2条の目的達成のために最小限次の三つを行なう。①夏のキャンプ②忘年会③歓送迎会」とあります。キャンプが必須項目とは本格的です。第三条「会員は理学部事務系職員の独身者とする」とあります。現在は教員が多く独身者に限っていませんが、このような成り立ちだったのですね。



2017年度第1回楽遊会。桜島納涼船にて。

桜島の納涼船に乗ったり、今話題のグランピングを企画しました。グランピングとは、手ぶらで行ってキャンプやバーベキューなどのアウトドア体験ができるという極めて現代的なモノです。

時代を映す変化があったり変わらないものがあったりする中で、楽遊会は学部内の横のつながりとして貴重な存在であると認識しています。51周年という節目(?)を迎えて、今年は私の専門である地質学を活かした地質巡検(見学旅行)を企画し、地質の解説をしながらの開聞岳登山を実施しました。

願わくは、事務系職員の会員数を増やし、職種の違いを超えた交流を復活させるなど仕事にもプラスとなる親睦団体となるよう盛り上げていきたいと思っています。



2017年度第2回楽遊会。グランピング。  
冬に屋外のバーベキュー

会のノートには役員や会計報告、イベントの報告、写真などが記載されています。ノートの記録形式の変遷も面白いものです。初期は基本的に全て手書きですがガリ版刷りが貼られているところもあります。祖父が鉄筆でロウ紙に丁寧に書いていたことを思い出します。昭和60年代になるとワープロで印刷したものが、平成7年になると電子メールの文面を貼り付けたものが登場します。

会の結成からしばらくは厳然たる独身会で、会員が結婚するとお祝いの会を開いたり祝電を送ったりして退会となっていました。平成になると独身の縛りがなくなっていったようです。

先に述べた通り、現在は会食形式の懇親会が中心ですが、以前はキャンプ・ドライブ・テニス・ボーリング・スケートなど様々な催しがあったようです。昨年度は、

## 医学部同窓会

### 鶴陵会女性支部長誕生

鶴陵会には27の支部があり、県外では関東、近畿、愛媛、福岡、長崎、佐賀、大分、熊本、宮崎、沖縄に支部があります。県支部以外では福岡・熊本両県にまたがる有明支部、宮崎県内の県北、都城、小林などの支部があり、鹿児島県内では出水、川薩、大口・伊佐、国分・始良、鹿屋・肝属、南薩、指宿に支部があります。関東以北、北陸、東海、山陰には残念ながら支部を結成するほどの会員がいないものと思われます。これら本部・支部の会員の中で女性会員が役員に就任しているのは本部で幹事2名、福岡・大分で副支部長（副会長）がそれぞれ1名でした。昨年、7月の福岡支部の総会において、宮崎前支部長の退任を受けて、副支部長であった津田 博子氏が支部長に選出されました。今後のご活躍を期待しております。鹿児島県以外で最も会員数の多いのが福岡支部ですが、支部総会への参加者、懇親会への出席者も本部・他支部に比べても最も多く、女性会員の参加も多いです。男女共同参画、クオータ制（政治における男女平等を実現するために、議員・閣僚などの一定数を女性に割り当てる制度）が叫ばれて長くなりますが、同窓会活動についてはまだまだ、女性の進出は進んでいません（女子大、女子主力学部などを除きます）。それは同窓会活動の時間帯や、役員に推薦されるためにはそれ以前の同窓会活動への関わりが評価されることなどが理由ではないかと思われます。鹿児島県内でも女性会員は多く、現在の学生の4割は女性がしめる状況ですが、卒業時の学年評議員選出では男性が選ばれることが多く、同窓会の持つ男社会的なイメージ、種々の連鎖で女性会員が同窓会の役職に就く機会が少ないのかなと考えたりします。同窓会活動をさらに活発にするためには、女性会員の関与がもっと必要ではないかと思う次第です。津田支部長に刺激され、積極的に関わる女性会員の出現を待っています。

（文責：医学部医学科同窓会鶴陵会会長 高松英夫）

### 保健学科同窓会の活動報告

今年4月初旬、毎年恒例の同窓会連合会の懇親会に参加しました。今回の同窓会連合会の懇親会は、久しぶりに看護学専攻部会の梅木さん、作業療法学専攻の中村さん、そして私と、三人そろいました。3人で近況を報告し合いながら昔話に花が咲きました。そんな折、今年度で保健学科は創設20周年という区切りの年だという話になりました。私が鹿児島大学に入学、卒業、就職、転職と年を重ね、はや20年。月日のすぎる早さと、成長しない自分に自己嫌悪です…

さて今回はそんな同窓会連合会でしたが、医学部同窓会鶴陵会の高松会長よりわれわれ保健学科同窓会へご提案を頂きました。「医学部同窓会でまとまろう。」と。

これまで保健学科同窓会として、3学科合同で同窓会を企画していましたが、数年前よりそれぞれの専攻科で同窓会行う分科会で同窓会を成長させてきました。しかしこの度、再び保健学科で、そして医学部でまとまろうと話を頂きました。たしかに同窓会連合会に参加しても医学部同窓会は医学科の鶴陵会であって、保健学科同窓会はなんだか宙ぶらりんな感じを受けていました。しかし保健学科も今年で発足20年、人間にすると成人する月日が経ちました。ここは、新しい取り組みに挑戦するときに来ているのかも知れません。これからの各専攻科の同窓会で、頂いた宿題を検討して行くことになると思います。保健学科同窓会の3名は身が引き締まり、今回の同窓会連合会の懇親会を後にしました。

卒業するとなかなか疎遠になる大学ですが、ある時皆さんがふと昔のことを思い出した時、いつでも帰れる場所として、思い出の地として、これからも同窓会を盛り上げ、後進へバトンをつないでいきたいと思います。

（文責：保健学科理学療法専攻部会会長 宮崎雅司）

## 歯学部同窓会

歯学部の主な行事をお知らせいたします

- 11月16日 進路相談会…5年生、臨床研修医対象  
名古屋より 星野 啓先生（20期卒）  
ロスからライン生中継にて清水藤太先生（10期卒）
- 11月18日 朝日大学歯学部創立40周年記念式典…村上会長出席
- 11月25日 鹿児島大学歯学部創立40周年記念式典・鶴陵会館  
鹿児島サンロイヤルにて 記念祝賀会
- 2月10日 九州5大学歯学同窓会連絡協議会の鹿児島開催（鹿児島大学歯学部同窓会が主管）
- 3月10日 第二回評議員会の開催
- 3月23日 鹿児島大学歯学部学位記授与式 同窓会賞表彰と副賞贈呈（卒業生1名）  
卒業生への記念品授与と正会員案内  
城山観光ホテルにて謝恩会

### 《鹿児島大学歯学部創立40周年記念行事》

歯学部創立記念式典・祝賀会であり、2017年11月25日に行われました。地域から国際貢献へ幅広い活躍をみせる鹿大歯学部記念式典では、鹿児島県知事、伊地知博史鹿児島県歯科医師会長（3期卒）等、錚々たる来賓の中、厳かに式典が開催されました。式典終了後は、鹿児島サンロイヤルホテルにて記念祝賀会を催しました。我々が村上慎一郎同窓会長（5期卒）の挨拶の後、各界を代表する方々、懐かしき歯学部名誉教授らと共に厳粛な中にも和気藹々とした楽しい時間を過ごすことが出来ました。

今後、同窓会・歯学部が一体となった事業を常に行っていければ、将来の鹿児島大学歯学部卒業生の自信と誇りになるのでは？と思った次第です。今回の事業が同窓会と歯学部のミニマムスタンダードとなり、今後50年、100年と発展させることを若い人が引き継いでくれたらと思います。

（佐藤友昭副会長）



祝賀会 村上同窓会会長



三反園県知事



宮脇歯学部長挨拶

## 工学部同窓会

### 工学部同窓会総会・懇親会

工学部同窓会編集幹事 重井 徳貴

3年に一度の工学部同窓会総会・懇親会が2018年3月17日（土）にホテルパレスイン鹿児島にて開催されました。講演会に48名、総会に54名、懇親会に54名の総勢57名が集い、各々の近況、工学部や同窓会の将来像について大いに語り親睦を深めました。

当日は16時からの評議会に続いて、16時40分から渡邊陸工学部長による講演会が開催されました。演題は「工学部改革について」で、現在検討中の工学部組織改革について講演がありました。イノベーション創出につながる融合領域の強化などについてお話いただき、工学部の将来に関する大変貴重なご講演でした。

その後、17時40分から総会が開催されました。総会では、過去3年分の一般報告、編集報告、会計報告、監査報告のほか、周年事業準備基金の創設、工学部創立75周年記念事業に向けた期成会発足に関する議事などがあり、全て承認されました。また、役員の変更も行われ、新役員として会長に松永洋文氏（海土52年卒、留任）、庶務幹事に酒匂一成氏（海土 H13年修、新任）、会計幹事に山元和哉氏（応化工 H 8年卒、新任）、編集幹事に重井徳貴（電気 H 4年卒、新任）が承認されました。また監事としては学内監事に福原稔氏（機械 II56年卒、新任）、学外監事に宮城泰児氏（建築58卒、新任）が承認されました。

総会に続き写真撮影が行われた後、18時30分から懇親会が開催されました。会長の松永洋文氏、工学部長の渡邊陸先生のご挨拶では、工学部創立75周年に向けた話題など工学部ならびに同窓会に対する熱い思いが語られました。そして、理工学研究科長の本間俊雄先生の乾杯の音頭の後、歓談となり学部や学科の垣根をこえた楽しい懇親会となりました。また参加者全員で「北辰斜めに」を大合唱した後、最後に染川賢一氏（応化39年卒）の閉会のあいさつと万歳三唱があり、盛会のうちに閉会となりました。

2020年に75周年を迎える工学部は75周年記念事業の準備を進めています。工学部同窓会では、これに協力するために、鹿児島大学工学部創立75周年記念事業期成会を立ち上げ準備をすすめています。会員の皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



平成29年度 鹿児島大学工学部同窓会総会・懇親会 平成30年3月17日 於 ホテルパレスイン鹿児島



## 農学部あらた同窓会

今回は平成29年度に行われた「支部総会」と「クラス会・グループ会」の概略について紹介します。詳細は「あらた同窓会報平成29年春季号」（平成30年3月23日発行、URL：<http://aratadousokai.org/>）をご覧ください。

### 1. 「支部総会」（「支部便り」から）

平成29年度は、以下の6支部の総会が開催されました。①**近畿・兵庫あらた会**（平成29年5月27日）：出席者24名。②**広島あらた会**（平成29年10月13日）：出席者11名、広島支部では、総会の報告を「広島あらた会通信第1号」として纏めました。③**佐賀あらた会**（平成29年7月15日）：出席者26名。④**熊本あらた会**（平成29年11月10日）：出席者：40名、⑤**長崎あらた会**（平成30年1月27日）：出席者27名、⑥**鹿児島支部総会**（平成29年10月20日）：出席者はボウリング大会41名、総会45名。

### 2. 「クラス会・グループ会」便り

①**農 S32年卒後60年記念同窓会**（平成29年11月22日）：卒業生36名中生存者22名、そのうち13名が茨城・三重からも参加。瞬時に往時に立ち返り、旧交を温めました。午前中、岩井久農学部長を共通棟屋上に囲み、桜島に抱かれて記念写真を撮影。その後、植物園、玉利池でも写真を撮影し、あらた記念館で昼食を摂りました。午後は、一同で前田芳實学長を表敬訪問し、大学の近況と研究方向等を拝聴した。鹿児島大学農学部 に榮あれ！

②**S42年入学農学科同期会壱岐・対馬探訪記**：今回で14回目の同期会となった。本年は9月19日からの3泊4日で計画。【初日】壱岐に向け、博多港から高速船“ヴィーナ号”に乗船、芦辺港に至る。【2日目】宿所での記念撮影の後、「壱岐風土記の丘」着。“ビューホテル壱岐”で、会食、「七高寮歌：北辰斜めに」「鹿児島高等農林学校校歌」「対岳寮第1、2寮歌」を合唱しました。【3日目】壱岐最高峰・標高213mの「岳の辻」で壱岐島を全貌後、“宿坊対馬西山寺”着。【4日目】博多港に移動、来年の開催地鹿児島での全員参加を約し、博多港で流れ解散となった。

③**人生の2周目を祝し…園芸学科昭和55年卒業同窓会記**：卒業後37年、人生の二周目に突入したのを記念して平成29年11月4日に15名で開催。旧交を温め、次回の再会を約束して“お開き”となりました。

④**「しらすの会（農業土木講座同窓会）」報告**：平成29年4月12日、農業土木講座の先生方（3名）、職員OB（1名）、昭和42年卒（4名）、43年卒（5名）、44年卒（3名）の16名の参加を得て、仮称「しらすの会」を開催しました。平瑞樹先生より、今までの農業工学科（農業土木）の変遷、平成28年度からの新しいコースの説明をいただいた。

⑤**岩堀修一先生傘寿祝賀会および果樹園芸学研究室同窓会**：平成29年11月4日に岩堀修一先生傘寿祝賀会を兼ねて果樹園芸学研究室の同窓会を113名の出席で開催。果樹研究室同窓会はこれまで5周年ごとに開催していましたが、今回を機に、いろいろなお祝いの機会にあわせて同窓会を開くことになりそうです。



農業土木講座の「しらすの会」の寄せ書き

# 鹿児島大学卒業・修了式後 魚水会賞が授与される

今年も鹿児島大学卒業・修了式が平成30年3月23日（金）鹿児島県体育館において挙行政され、学部学生1,976名、大学院修了生509名が巣立っていきました。

水産学部も学部・修了生139名が卒業・修了していきました。

水産学部では体育館での全体の卒業・修了式終了後、午後1時半から水産学部23号大教室にて学位記（卒業・修了証書）授与式が行われ成績優秀者5名に魚水会賞が授与され表彰状と金一封を贈呈しました。

また、例年通り卒業生全員に魚水会から鹿児島大学寮歌・学部歌CDと歌集などが贈られました。

越塩俊介学部長から「社会に出ても水産学部の誇りを持ち頑張って欲しい」などの祝辞あり、岩元善巳魚水会会長から「初代山本清内学部長の提唱された『海を怖れず、海を愛し、海を拓け』のポリシーを肝に銘じ、国内はもとより世界に羽ばたいて欲しい」との祝辞を述べられ、今後の社会人としての心構えなどの訓示を卒業生にされました。

今年の卒業生もほとんどの人が一部上場企業などの上場企業や優良民間企業や中央省庁や各地の県庁などに就職出来ました。

これも水産学部と魚水会が長年、提携して進めてきた『就職支援教養講座』や『学術振興基金』などでの学生の支援をしてきたことなどが功を奏したものと思います。

### 魚水会賞は

岩越 亮磨さん、上村 実徳さん、河辺 ももこさん、窪田 大晟さん、西田 沙織さんの5名でした。



魚水会賞受賞者



岩元会長祝辞



越塩学部長祝辞



学位記授与式終了後、中庭において恒例の集合写真

## 共同獣医学部同窓会

平成30年度より、鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会が本学同窓会連合会に新規加入をいたしましたので、以下、共同獣医学部小史と現状及び同窓会の活動等をお知らせします。

共同獣医学部の前身である獣医学科は昭和14年に鹿児島高等農林学校に創立され、昭和24年の学制改革により鹿児島大学農学部獣医学科となり、その後昭和59年に6年制へ移行、平成18年の9学科目制から3講座制への改組を経て、平成24年4月に鹿児島大学9番目の学部として共同獣医学部が設置されました。

共同獣医学部の設置に伴い獣医学科は3講座制（基礎獣医学、病態予防獣医学、臨床獣医学）となり、18教育研究分野（研究室）が、また付属施設として大動物診療センター、小動物診療センター、総合動物実験施設、越境性動物疾病制御研究センター、および大隅産業動物診療研修センター等が設置され、高度産業動物獣医学及び動物衛生学の教育と研究に特色を持つ鹿児島大学と、高度伴侶動物獣医学及び公衆衛生学の教育と研究に特色を持つ山口大学の教員による幅広い教育の提供により、国際水準を目指した獣医学教育の充実と多様化する獣医師への要求に対応できる人材の育成を行っています。

一方、同窓会は獣医学科の歴史と歩調を合わせる形で、昭和24年10月に鹿児島農林専門学校獣医畜産学科の同窓会として発足し、昭和25年5月の学制改革により鹿児島大学農学部獣医学科紫友同窓会となり、さらに平成24年4月より共同獣医学部紫友同窓会として引き継がれております。本会は、卒業生、在学生及び教職員から組織され、現在の会員数は約1,800余名です。

本会では、会則に謳われた目的を達成するために学部への協力として新設講座への支援、卒業生及び在学生への支援など様々な事業を行っております。以下は29年度の主な活動内容です。

- ・ 5月に小動物診療センターが開院したことに伴い、同窓会員の描いた100号のアクリル画「母と仔」を額装を施し寄贈しました。本画は同センターの待合室に掲げられています。
- ・ 9月に第160回日本獣医学会学術集会在鹿児島大学主宰で郡元キャンパスで開催され、同窓会から資金面での支援を行いました。
- ・ 毎年卒業生の中からクラスのまとめ役を熱心に行った男女会員1名にベストクラスメート賞を授与し表彰しました。
- ・ 学部第1期生が卒業するに当たり、学部と共催して卒業記念パーティーを開催しました（写真）。



## ▶特別寄稿文◀

### 変わる大学教育

鹿児島大学法文学部長 高津 孝

法文学部は、平成29年4月に20年振りに改組（組織の改変）を行い、組織と教育の大幅な見直しを行いました。組織の面では、これまでの3学科（法政策学科、経済情報学科、人文学科）を2学科（法経社会学科、人文学科）5コース（法学コース、地域社会コース、経済コース／多元地域文化コース、心理学コース）に変更いたしました。ポイントは、法政策学科、経済情報学科の統合と地域社会コース、心理学コースの新設です。ここ数年、地方国立大学の文系は大きな組織変更を社会から求められ、地域性を強く打ち出した学部の新設が続きました（長崎大学多文化社会学部 H26、山口大学国際総合科学部 H27、高知大学地域協働学部 H27、愛媛大学社会共創学部 H28、宮崎大学地域資源創成学部 H28、佐賀大学芸術地域デザイン学部 H28、琉球大学国際地域創造学部 H30）。鹿児島大学においても種々の検討が行われましたが、新しい学部の設立ではなく、法文学部の充実発展という方向で大学を強化する道を選択しました。今回の改組で法文学部は、学生定員が1学年15名増加し、410名となりましたが、日本全体の少子化の進展の中で学部定員の増加は大きな決断を伴うものでした。現在、法文学部という名称は、鳥根大学、愛媛大学、鹿児島大学の3大学にのみ残ることになりました。

今回、教育の見直しという点では、3つの学び（「広く学ぶ」「深く学ぶ」「学びを活かす」）を段階的に習得できるようカリキュラム改革を行いました。「広く学ぶ」は、鹿児島大学あるいは法文学部としての基礎教育で、「深く学ぶ」とは、専門領域の基本的な内容を教える科目で、「学びを活かす」とは、実習などによる現場感覚の涵養を通して、習得した専門的知識を具体的な実践に結びつける科目です。最後のものは最近よく言われるアクティブ・ラーニング（能動的（アクティブ）に学修（ラーニング）に参加する）という教育方法に関連します。また、現場感覚を有し広い視野を獲得するための科目として、「観光学」「島嶼ツーリズム論」「まちづくり論」「マスコミ論」「アクティブ・ゼミ」などの科目を準備しました。

自分が学生であった頃と比べると、21世紀になって大学の授業は大きく変わりました。鹿児島大学では学部共通の共通教育の中で、1年生むけの必修授業として「初年次セミナー」という授業が設けられています。この授業では、学部の壁を超えて、複数の学部の学生が混じったクラス編成が行われています。以前であれば、全てが学部、学科単位の授業であったのですから、大きな違いです。また、教育力向上の取り組み（FD活動）ということで、教員同士が相互に授業を参観するという活動があります。わたしも積極的に授業を参観するようにしていますが、若い先生の授業は実に様々な工夫が凝らされて、勉強になります。自分が学生の時にはほとんどが教室に座って先生の講義を聞くだけの一方通行の授業だけでしたが、いまは、スマホで出席確認をしたり、その場でスマホによるアンケートを行い、画面に結果がダイレクトに反映されたりと、技術的な進歩には著しいものがあります。大学には公開授業という制度もあるので、一度、見学されてみてはいかがでしょうか。

## ▶特別寄稿文◀

### 七高寮歌

鹿児島大学理事・副学長 高松 英夫  
(鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会会長)

◎「北辰斜に」作曲者：須川政太郎

「北辰斜に」の作曲者である須川政太郎氏の孫、須川敏史（さとし）氏が平成30年4月18日（金）15時～16時に大学を訪ねてくれました。

祖父の足跡をたどり、「北辰斜に」について話が聞きたいとのことで、その1週間ほど前に大学の広報室に連絡がありました。「北辰斜に」ほか七高の資料は理学部同窓会のホームページに、大変に充実した内容で掲載されておりましたので、ここからプリントして須川氏に渡すつもりでいましたが、なんと理学部同窓会のページを再構築した関係で資料を格納するスペースの確保が遅れ掲載されていないとのことでした。理学部の有馬一成先生（理学部同窓会幹事、理工学研究科生命化学専攻 有機生化学）にお願いして、「北辰斜に」に関するデータを急遽アップしてもらい、須川氏の来鹿に間に合わせることができました。有馬先生、ホームページの修復、有り難うございました。

当日、まず学長に会っていただき少しお話をさせていただいた後、訪問を記念して写真を撮影しました。それから小生の部屋へ移動し、「北辰斜に」に関する資料、寮歌集、楠声会合唱団が録音した寮歌・学部歌のCDなどをお渡ししました。また、須川氏は「熊野誌」第37号（平成3年12月発行）を持参されており、いろいろ参考になりました。

今回、明らかになったことを紹介します。（敬称は略させていただきます）

作曲「すがわせいだろう」と読んでおりますが、これは「まさたろう」であるとの指摘を受けました。「北辰斜に」情報では作詞者の築田勝三郎の事は詳しく書いてありますが、作曲者についての情報は多くありません。それは須川政太郎が七高の学生ではなく鹿児島師範学校の教師であったため、残された情報が少なかったことが大きいのではないかと思います。須川政太郎は明治17年12月18日、和歌山県新宮市新宮に生まれ、県立和歌山中学校を明治37年3月に卒業後、東京上野音楽学校（現東京芸大）に進学、甲種師範科に学び明治44年3月に卒業しました。山田耕筈は三年先輩の音楽科で、卒業後も作曲のことなどで交流していたとのことであります。明治45年4月11日（1912年、この年の7月30日から大正）、北海道松前出身で秋田高女を卒業した長谷川カタと結婚し、大正2年鹿児島師範学校の音楽教諭として赴任しました。旧制第七高等学校第14回開校記念祭歌（大正4年）「北辰斜に」、第17周年記念寮歌（大正7年）「白露しげき」

# 熊野誌

第三十七号  
南方熊楠特集号

## 目次

南方熊楠その生涯をかえりみて 付：『南方熊楠』複製版について	佐藤 良 雄 (1)
南方熊楠先生と那智山麓の大坂屋のこと	稲垣 いなゑ (26)
私の南方熊楠翁訪問記	木村 亨 (26)
南方先生あれこれ	岸田 定 雄 (29)
南方熊楠・母すみの日記	中瀬 喜 陽 (36)
南方熊楠と日高	吉川 寿 洋 (42)
私の熊野ショッキング―古道・熊楠・沖縄―	桑原 守 也 (48)
南方熊楠と佐藤春夫	草加 茂 一 (55)
鳥葉小見	若林 芳 樹 (64)
徐福の我が国への渡来伝承と其の史的考察(一)	刈 米 正 夫 (68)
吉田松陰の水野忠次観	山口 宗 之 (75)
熊野比丘尼考	山 村 千 雄 (79)
土佐に熊野の歴史を尋ねて	前 田 千 雄 (95)
熊野に潜居した天正の勇将鈴木孫市	榎 本 逸 史 (113)
熊野における雑感伝承	遠 山 忠 靖 (121)
丙寅戦役についての二つの書簡	木 村 浩 一 (144)
太地角右衛門と熊野捕鯨(VII)	太 地 喜 亮 (159)
古座川及び東牟婁地方の墓石造塔の系譜	山 口 登 志 夫 (179)
太平洋戦争時、紀伊半島沿岸における被害船舶と 対潜戦闘・前編	川 合 功 一 (185)
三重県南牟婁郡紀和町に眠る外人（英国軍捕虜） 墓地	二 河 通 夫 (203)
「北辰斜に」と「青柳草」つれづれ ―須川敏史と祖父―	山 本 マ ヤ (217)
佐藤春夫「新田原の神報」登場人物の虚像と実像に 見る紀州人	山 路 哲 良 (242)
佐藤春夫邸（佐藤春夫記念館）について ―近代住宅史上から見た佐藤邸	田 中 修 司 (259)
「田園の憂鬱」論	見 薮 香 織 (274)
執筆者紹介・編集後記	

熊野地方史研究会  
新宮市立図書館

(有 道夫作詞、大正8年英)、第17回開校記念祭歌(大正7年)「夕陽直(ただ)射す」(井田 正一作詞、大正8年独)、大正14年對五高戦應援歌「碧落燃えて」(尾前 林作詞、昭和2理甲)、大正14年對五高戦應援歌「魔神のすさび」(宇都 潔作詞、大正15文乙)などを作曲しています。

政太郎、カタは大正3年の桜島の大噴火を経験していることとなります。長男敏郎(としお)は大正2年以降に鹿児島で生まれているはずですが、大正大噴火を経験していたかどうかは定かではありません。もし経験していたとしても記憶にはないものと思われる。須川一家は大正八年頃まで鹿児島に住んでいたとのことなので、大正14年の応援歌は県外にいた須川に依頼したものと考えられます。Wikipediaでの須川政太郎の記事ではカタとともに竹久夢二、宵待草が同時に紹介されます。なぜ、須川政太郎と竹久夢二がつながるのか不思議に思っていたのですが、「熊野誌」第37号にはそのいきさつが詳しく紹介されていました。{|北辰斜に|と|宵待草|つれづれ一須川政太郎と竹久夢二一;山本マヤ|

それによると、竹久夢二は当時読売新聞社で働いており、夏休みに訪れた千葉県房総で秋田高女を卒業して帰省していたカタと知り合い、絵のモデルを頼んだそうです。人目を気にして待てど暮らせど会えないこともあり、宵待草の咲く松林で自然にこのような詩(宵待草)が作られていたとのこと。10日間の夏休みを終え、竹久夢二が東京へ帰る際に、カタは縁談の話があることを告げ、そのまま別れることとなります。2年後にカタのいない海岸を訪ねたが宵待草が美しく咲いていた。などの物語があったそうです。(かなり省略しています。)

須川政太郎、カタは一男三女に恵まれ、政太郎はその後、京都師範学校、彦根女学校、半田女学校の音楽教諭を歴任、昭和30年没。享年71歳。カタは昭和42年7月28日病死。墓は新宮市の長徳寺にあると Wikipediaでは出てきますが、ここは「菩提寺」で、墓は新宮市の南谷共同墓地にあり、政太郎・カタともに埋葬されているそうです。この墓地には中上健次ほか新宮の著名な文化人の墓が有り、お墓参りに来る人も多いらしく、新宮市役所のホームページには「歩楽歩楽(ぶらぶら)マップ ヤタガラスの弥之助の南谷墓地案内」という地図もあります。政太郎は逝去の時「僕が作曲した「北辰斜に」は今でも七高卒業生が全国至るところで歌っているそうだ。満足すべき一生であった。」と言葉をのこした、と書かれています。{|熊野誌:第37号|没後65年を過ぎても「北辰斜に」が歌い継がれていると知ったら、さらに喜んでくれるでしょうか!!

### ◎今も歌い継がれる七高寮歌

旧制高等学校には数多くの寮歌があり、旧制高校卒業生を中心とする日本寮歌振興会が主催して毎年日本寮歌祭が開催されていました。1961年(昭和36年)10月7日に文京公会堂で第1回が開催されましたが、以後、年月を経るにつれ参加者の高齢化により運営に困難をきたしたことから、2010年(平成22年)の第50回をもって打ち切りとなりました。しかし寮歌を歌い継いでゆこうとする有志が「寮歌伝承の集い」や「全国旧制高等学校寮歌祭」、「中央寮歌祭」などの取り組みをしています。「寮歌伝承の集い」は日本寮歌振興会が開催し、旧制高校寮歌は後世に伝承すべき立派な日本の文化遺産であるとの使命の元、全国から寮歌を愛する200人が集まり寮歌を熟唱する会であると伺っています。プログラムに乗っ取り淡々と各旧制高校の寮歌が歌い進められますが、昨年までに6回を数えています。第5回は東大コールアカデミーが招待されましたが、平成29年第6回には東京楠声会(鹿児島大学男声合唱団フロイデコールOBで組織する楠声会の東京支部)が「北辰斜に」、「森の梢」、ほかを披露しました。東京楠声会は本年の第7回の集いにも招待されているとのことで、その理由は旧制寮歌を歌っている団体は東大と楠声会以外にはないからという事でありました。(東京楠声会、上土井氏情報)

鹿児島大学は前田学長の強い要望で卒業式で「北辰斜に」を卒業生全員で1番から5番まで歌います。まだ、声は小さいですが、近い将来全員で本当の高唱ができることを祈っています。私たちが入学したときには、寮歌愛好会の先輩たちに「北辰斜に」を歌わされたものですが、今コンパなどでも巻頭言などとともに「北辰斜に」を歌うこともあります。歌う学生・歌える学生も少なくなっています。現在、入学式式典の後「北辰斜に」の歌唱指導を行っています。時間が短いので一番だけ、しかも一回しか練習できませんが、この努力が実ることを祈っています。ちなみに、歌唱指導者は私です。

## 平成 29 年度一般会計決算書

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

平成 30 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

### 収入の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考
繰越金	97,958	97,958	0	
学部別同窓会分担金	800,000	800,000	0	振込手数料は振込者負担に
総会・懇親会費	990,000	1,038,000	48,000	6,000 円× 173 名分
OB ゴルフ大会協力金	50,000	50,000	0	
雑収入	42	5	- 37	利子
繰入金	0	0	0	定期貯金より
寄付金	0	0	0	
合計	1,938,000	1,985,963	47,963	

### 支出の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考	
会議費	80,000	77,173	- 2,827	幹事会・役員会	
総会・懇親会費	1,050,000	1,094,160	44,160	総会会場費・懇親会費	
印刷費	520,000	461,700	- 58,300	会報 24 号、25 号(支部分含む)	
人件費	120,000	120,000	0	事務員給料	
事務費	備品費	5,000	0	- 5,000	
	通信運搬費	20,000	22,392	2,392	切手、DM 便代、振込手数料
	消耗品など	3,000	2,398	- 602	コピー用紙 など
旅費	70,000	110,000	40,000	福岡、関東	
雑費	10,000	1,050	- 8,950	残高証明手数料、コピー代	
慶弔費	30,000	0	- 30,000		
予備費	30,000	15,120	- 14,880	「きばいやんせ鹿大生 2017」打合せ会費	
合計	1,938,000	1,903,993	- 34,007		

次年度繰越金：1,985,963 - 1,903,993=81,970 円

## 平成 29 年度定期貯金決算書

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

通帳（郵便定期）	400,000
郵便定期貯金利息	68
合計	400,068

## 平成30年度一般会計予算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(単位：円)

### 収入の部

項目	前期決算額 (A)	予算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考
繰越金	97,958	81,970	- 15,988	H30 年度繰越金
学部別同窓会分担金	800,000	800,000	0	振込手数料は振込者負担に
総会・懇親会費	1,038,000	1,105,000	67,000	170 名× 6,500 円
OB ゴルフ大会協力金	50,000	50,000	0	
雑収入	5	5	0	利子
繰入金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
合計	1,985,963	2,036,975	51,012	

### 支出の部

項目	前期決算額 (A)	予算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考	
会議費	77,173	100,000	22,827	幹事会・役員会	
総会・懇親会費	1,094,160	1,110,000	15,840	総会会場費・懇親会費	
印刷費	461,700	500,000	38,300	会報26号、27号(支部分含む)	
人件費	120,000	120,000	0	事務員給料	
事務費	備品費	0	5,000	5,000	
	通信運搬費	22,392	25,000	2,608	切手、DM 便、振込手数料
	事務雑費	2,398	5,000	2,602	コピー用紙など
旅費	110,000	40,000	- 70,000	福岡	
雑費	1,050	10,000	8,950		
慶弔費	0	30,000	30,000		
予備費	15,120	91,975	76,855		
合計	1,903,993	2,036,975	132,982		

## 平成30年度定期貯金予算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

通帳（郵便定期）	400,068
郵便定期貯金利息	40
合計	400,108



## 平成30年度 鹿児島大学同窓会連合会総会・懇親会～卒業生の集い～を開催

4月7日（土） 城山観光ホテルにて総会・懇親会～卒業生の集い～が開催されました。共同獣医学部紫友同窓会の加入、会則改正等が承認されました。その他の総会内容は下記のとおりです。また、鹿児島大学及び鹿児島大学同窓会連合会の発展に多大な貢献をされた功績を讃え、前田学長より江口会長へ感謝状が贈呈されました。その後の懇親会は関東、福岡支部からの参加もあり盛会のうちにお開きとなりました。

（参加者：総会80名、懇親会185名）

### <総会協議事項>

- 1 開会のあいさつ
- 2 鹿児島大学同窓会連合会長のあいさつ 江口正純会長
- 3 鹿児島大学長のあいさつ 前田芳實学長
- 4 訃音ご報告、黙祷
- 5 協議
  - 1) 平成29年度事業報告（案）
  - 2) 平成29年度収支決算（案）
  - 3) 平成29年度監査報告
  - 4) 平成30年度事業計画（案）
  - 5) 平成30年度収支予算（案）
  - 6) 共同獣医学部紫友同窓会の加入について
  - 7) 会則改正（案）について
- 6 鹿児島大学の近況について
- 7 感謝状贈呈
- 8 閉会のあいさつ

### <懇親会～卒業生の集い～の様子>



歯学部



感謝状贈呈



総会



法文学部



懇親会



共同獣医学部



全員で「北辰斜に」大合唱



# 鹿児島大学同窓会連合会並びに各学部同窓会の連絡先

## 鹿児島大学同窓会連合会

〒 890-0075  
鹿児島市桜ヶ丘 8 - 3 5 - 1  
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局  
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784  
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学歯学部同窓会

〒 890-8544  
鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 3 5 - 1  
鹿児島大学歯学部内  
鹿児島大学歯学部同窓会事務局  
TEL・FAX 099-264-1600  
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

## 鹿児島大学法文学部同窓会

〒 890-0065  
鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 3 0  
鹿児島大学法文学部同窓会事務局  
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573  
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学工学部同窓会

〒 890-0065  
鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 4 0  
鹿児島大学工学部同窓会事務局  
TEL・FAX 099-285-3494  
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

## 鹿児島大学教育学部同窓会

〒 890-0065  
鹿児島市郡元 1 - 2 0 - 6  
鹿児島大学教育学部事務局内  
TEL・FAX 099-285-7718  
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒 890-0065  
鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 2 4  
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局  
TEL・FAX 099-285-8537  
e-mail aratakai@mc2.seikyone.jp

## 鹿児島大学理学部同窓会

〒 890-0065  
鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 3 5  
鹿児島大学理学部同窓会事務局  
TEL 099-285-8925  
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学水産学部同窓会

〒 890-0056  
鹿児島市下荒田 4 - 5 0 - 2 0  
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局  
TEL・FAX 099-286-4080  
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学医学部同窓会

〒 890-0075  
鹿児島市桜ヶ丘 8 - 3 5 - 1  
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局  
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784  
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒 890-0065  
鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 2 4  
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局  
TEL・FAX 099-285-3538/8711 (FAX 兼用)  
e-mail k2088185@kadai.jp

## 鹿児島大学 同窓会連合会

〒 890-0075 鹿児島市桜ヶ丘 8 - 3 5 - 1  
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局  
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784  
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

印刷 斯文堂株式会社

〒 891-0122 鹿児島市南栄 2 丁目 12 - 6  
TEL 099-268-8211 FAX 099-269-5198  
e-mail info@shibundo.jp